

かけはし

一小だより

No.18 24・1・12

さい おう

塞翁が馬

校長 大村 亨 夫

新しい年、皆様いかがお過ごしですか。学校は6日に3学期の始業式を迎え、元気にスタートしました。校舎に子ども達の声が響き、いつもの毎日が戻ってきました。こんな当たり前で、何気ないことが幸せに思えます。

昨年の大震災から10カ月。時は過ぎ、日常が戻りつつあるように見えますが、まだ戦いは続いています。犠牲になられた方々に対する哀悼を胸に刻みつつ、私は、新しい希望の日が、東北に再び訪れることを願っています。

こんな気持ちで始まった3学期の始業式。私は、「塞翁が馬」の話を子ども達にしました。幸せや不幸は予測できないという中国の昔話です。

まず、言葉が難しいので、塞は国境沿いの城塞(かべ)。翁は老人であることを教えました。(1年から6年にむけての話は、ホントのところ頭が痛いのです。)

翁(老人)の飼っていた大事な馬が、ある日、城塞を超えて別の国に逃げてしまいました。村人は、翁を慰めます。「お気の毒に。」しかし、翁は平気な顔をして「いやいや、これで幸せになるかも知れないよ。」残念がる様子もありません。

しばらくたったある日。逃げ出した馬が、隣国の良い馬をたくさん連れて戻ってきたのです。近所の人たちが、翁にお祝いをしに行くと言った。翁は首を振って言いました。「このことが災いを呼ぶかも知れないよ。」

この言葉通り、馬で遊んでいた翁の息子が落馬し、足の骨を折ってしまったのです。

近所の人たちは口々に言いました。「かわいそうに。」でも、翁は平然と「このことが、幸せなのかも知れない。」と答えたのです。

1年たったある日、隣国が城塞を破り、翁の国に攻め込んできました。若者はすべて戦いにかりだされ、そのほとんどが死んでしまいました。しかし、翁の息子は、足が悪かったため、戦いに行かずに済み、無事だったのです。

私が、子ども達に伝えたかったのは、例えば災いや不幸に見舞われても、絶望に沈んだままではいけない。間違っても、死んではいけない。希望を捨てずに立ち上がれば、災いが福に変わる時もある。あきらめずに生きていこうということでした。人間万事塞翁が馬。人生、良い時もあれば悪い時もあります。災いや不幸を福へと変化させるのは、自分自身の「心」なのかも知れません。

元日の新聞。中ごろのページに「未来へ。」というある会社の広告を見つけました。今年始めのお便りで、その文章をお伝えします。

未来へ。未来は待っているものではなく、つかまえに行くものです。希望は、探すものではなく、つくりだすものです。

2012年。私たちは、顔を上げ、まなざしを先へ向けよう。

皆様にとって、今年も良い年でありますように。



校内書き初め大会 (5年 春の七草)

七浦小交歓会 (受入)

第38回を数える南房総市立七浦小学校との交歓会が、1月8日(日)から10日(火)にかけて行われました。今年は、5年生10名と引率者7名、計17名の皆さんをお迎えしました。

1日目は飯豊少年自然の家での生活です。第一小児童、PTAの方々が大きな拍手でお出迎えをしました。



飯豊少年自然の家での【歓迎会・入所式】



全員で記念撮影



初めてのスキー体験 楽しかったそり滑り

七浦小との交歓会**3日目**。いよいよ今日でお別れです。ホームステイ先から直接学校に集合し、お別れ式をしました。



お別れ会 千倉でまた会いましょう



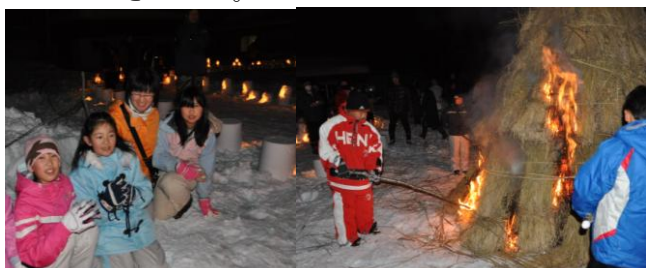
スノーキャンドルづくり 餅つき

田んぼの先生を招待し、餅つきを手伝っていただいた後、一緒に食堂で食べました。子どもたちは何回もおかわりをしてたいへんおいしくいただきました。

5年 山口 万輝 (作文から抜粋)
この3日間、七浦小の人たちとしゃべったり、一緒に遊んだりしました。この交歓会で七浦小の人たちとの絆が深まったと思うし、友達になれてよかったなあと思いました。2月の訪問が楽しみです。

子どものがんばり

- 第36回全国「私のアイデア貯金箱」コンクール
楽しい貯金箱で賞 4年 木村 暁
- 西置賜地区読書感想画コンクール
入選 1年 朝倉 日向
入選 3年 手塚 捺稀
- めざみの里「書き初め大会」
教育長賞 6年 佐藤 好郁
金賞 4年 小山 航平
銀賞 5年 渡部あや乃
銅賞 2年 嘉藤 友紀
銅賞 6年 多田野 伶良
銅賞 5年 山内 紘幸



幻想的な風景と冬の風物詩 (さいど焼き)

2日目は、手ノ子スキー場でのスキー交流です。すばらしい天候に恵まれ、青空のもとスキー交流、雪遊びを楽しむことができました。特にそり滑りは楽しかったようです。